

【資料論文】

痴呆疾患の予後調査

大塚 俊男

抄録：1989年以降5年間に、精神病院内で死亡した痴呆患者について予後調査を行った。その結果31病院1,043名の対象患者について調査し、発病年齢および罹病期間は、脳血管性痴呆では78.4歳、4.4年、アルツハイマー型老年痴呆79.0歳、4.9年、ピック病58.5歳、5.1年、アルツハイマー病60.8歳、6.3年であり、1,043名中事故死は1名であった。

精神保健研究 41 ; 61-64, 1995

Key words: *dementia, age of onset, duration of disease, epidemiology.*

I. はじめに

人口の高齢化に伴って痴呆疾患が増加しているわが国では、在宅だけでなく、病院や施設における治療やケアは重要な問題となっている。そのような中で、痴呆の発症年齢およびその予後を明らかにすることは対策を考える上からも重要であり、以下の調査を行ったので報告する。

II. 調査方法

今回の調査では、一定の調査票（患者の性別、生年月日、推定発病年月日、初発症状、剖検の有無、剖検診断、入院年月日、死亡年月日、死亡場所、死亡の種類、死亡の原因、発病から死亡までの期間についての記入方式の調査票）を作成し、1989年以降5年間に老人性痴呆疾患治療病棟を有する精神病院内で死亡した痴呆患者について当該病院の医師に依頼し、死亡診断書およびカルテを

参考に調査を行った。なお痴呆疾患の診断は、以下の診断基準で行われた。

1. 脳血管性痴呆

脳血管障害の結果生じた痴呆を示す疾患、従来脳動脈硬化性痴呆と呼ばれている。階段状に悪化する経過で、初期には斑状に分布した欠陥を伴う。脳血管障害によると思われる神経学的徴候と症状や神経放射線検査による病巣像を有する場合をこれに含める。

2. 老年痴呆（アルツハイマー型老年痴呆）

老年期に発症する原因不明の脳の萎縮性疾患で、その結果痴呆を示す。

- (1) 多くは潜伏性の発症と一様に進行性に悪化する経過をとる。
- (2) 病歴、身体的診察および臨床検査によって特定の原因を決められないもの。
- (3) CTスキャンにより脳萎縮を認めるもの。

3. ピック病

初老期に発症する脳萎縮性疾患。病初期では記憶障害、見当識障害より人格変化が目立ち、無分別な行為に気付かれる。病気の進行に伴い、自発性減退が認められる。検査に対して考え無精（無関心、無頓着、不熱心、不真面目な態度）や注意

Investigation on prognosis of the Demenzia

国立精神・神経センター精神保健研究所

[〒272 市川市国府台1-7-3]

Toshio Otsuka: National Institute of Mental Health, NCNP 1-7-3, Kohnodai, Ichikawa, Chiba, 272

集中困難が認められる。滞続言語、自発言語の減少が認められる。CTスキャンで葉性萎縮(主として前頭葉, 側頭葉部の限局性萎縮)が認められる。

4. アルツハイマー病

初老期に発症する原因不明の脳の萎縮性疾患で、その結果痴呆を示す。記憶障害が前景にみられるが、初期には病感もち、人格の保持、感情反応の保持、多動傾向、巢症状(失語, 失行, 失認)筋強剛, 語間代などの特徴ある症状を示す。

5. その他の痴呆疾患

- (1) 前記疾患以外の痴呆疾患の全てをこれに含める。例えば感染症(脳炎, 進行麻痺など), 変性疾患(ハンチントン舞踏病, パーキンソン病, 進行性核上麻痺など), 脳腫瘍, 外傷性疾患(頭部外傷, 硬膜下血腫など), 中毒性疾患(アルコール中毒, 金属有機化合物による中毒など), 内分泌代謝性疾患(甲状腺機能低下症, 副甲状腺機能低下症, ウイルソン病など), てんかん
- (2) 何らかの脳器質性疾患が原因と考えられるが、その原因疾患の推定が困難なものもこれに含める。

III. 調査結果

本調査に協力の得られた精神病院は31病院で、調査できた患者は1,043名(男性485名, 女性558名)で、疾患別では脳血管性痴呆572名, アルツハ

イマー型老年痴呆373名, ピック病8名, アルツハイマー病25名, その他の疾患65名であった。

1. 発病年齢

発病年齢は表1に示す如く、脳血管性痴呆では最高99.1歳, 最低42.3歳で、平均78.4歳(男77.8歳, 女79.2歳), アルツハイマー型老年痴呆では最高97.3歳, 最低56.5歳で、平均79.0歳(男77.0歳, 女80.0歳)であり、脳血管性痴呆, アルツハイマー型老年痴呆ともほぼ同年齢であり、男性より女性の方が発病が遅いことが認められた。ピック病は最高66.2歳, 最低45.2歳, 平均58.5歳, アルツハイマー病は最高85.3歳, 最低44.6歳, 平均60.8歳であったが、この両疾患は調査例が少ないため、この数値で意味づけることはできない。

2. 死亡年齢

死亡年齢は脳血管性痴呆では、82.8歳(男81.8歳, 女84.2歳), アルツハイマー型老年痴呆では83.9歳(男81.1歳, 女85.4歳)であり、アルツハイマー型老年痴呆が約1年程高年齢であった。ピック病は63.6歳, アルツハイマー病は67.1歳であった。

3. 罹病期間

罹病期間をみると、脳血管性痴呆では4.4年(男4.0年, 女5.0年), アルツハイマー型老年痴呆では4.9年(男4.1年, 女5.4年)であり、脳血管性痴呆よりアルツハイマー型老年痴呆の罹病期間がやや

表1 発病年齢と死亡年齢

N=1,043

	発病年齢(歳)			死亡年齢(歳)			罹病期間(年)			在院期間(年)		
	男	女	平均	男	女	平均	男	女	平均	男	女	平均
脳血管性痴呆 N=572	77.8	79.2	78.4	81.8	84.2	82.8	4.0	5.0	4.4	1.7	2.4	2.0
アルツハイマー型老年痴呆 N=373	77.0	80.0	79.0	81.1	85.4	83.9	4.1	5.4	4.9	1.2	2.7	2.2
ピック病 N=8	57.0	61.0	58.5	62.5	65.5	63.6	5.5	4.5	5.1	1.4	2.5	1.8
アルツハイマー病 N=25	62.1	59.7	60.8	68.0	66.3	67.1	5.9	6.6	6.3	1.4	2.5	2.0
その他の痴呆 N=65	63.1	72.0	67.2	70.9	79.2	74.7	7.8	7.2	7.5	3.9	4.9	4.3

長く、男性より女性の罹病期間が長いことが認められた。ピック病では5.1年、アルツハイマー病は6.3年であった。

4. 入院期間

入院期間は脳血管性痴呆では2.0年（男1.7年，女2.4年），アルツハイマー型老年痴呆では2.2年（男1.2年，女2.7年），ピック病1.8年，アルツハイマー病2.0年で，4疾患ともほぼ2年であった。

5. 死亡の種類

死亡の種類は1,043名中病死1,042名，不慮の事故1名でそれは窒息死であった。病死の直接死因では心不全が452名（43.3%）で最も多く，ついで呼吸不全272名（26.1%），肺炎160名（15.3%），悪性腫瘍19名（1.8%），老衰17名（1.6%），腎不全16名（1.5%），脳出血11名（1.1%），消化管出血10名（1.0%），その他86名（8.3%）の順であった。直接死因の原因としては，肺炎235名（38.7%），脳梗塞41名（6.8%），心不全26名（4.3%）悪性腫瘍21名（3.5%），老衰21名（3.5%），呼吸不全20名（3.3%）の順であった。

表2 直接死因 N=1,043

死 因	人 数	%
心 不 全	452名	43.3%
呼 吸 不 全	272	26.1
肺 炎	160	15.3
悪 性 腫 瘍	19	1.8
老 衰	17	1.6
腎 不 全	16	1.5
脳 出 血	11	1.1
消 化 管 出 血	10	1.0
そ の 他	86	8.3

6. 初発症状

初発症状は複数の症状が認められるため重複回答としてまとめた。痴呆疾患全体でみると，もの忘れ433名（41.5%）が最も多く，ついで徘徊171名（16.4%），被害妄想170名（16.3%），眠らない105名（10.1%），せん妄97名（9.3%），顔が誰だかわからない91名（8.7%），外出したがらぬ82名（7.9%），迷子80名（7.7%）の順であった。

なお被害妄想は，その内容は物を盗られる132名，

表3 初発症状 N=1,043

症 状	人 数	%
もの忘れ	433名	41.5%
徘徊	171	16.4
被害妄想	170	16.3
眠らない	105	10.1
せん妄	97	9.3
顔が誰だかわからない	91	8.7
外出したがらぬ	82	7.9
迷子	80	7.7
その他	1,132	
合 計	2,361名	

（重複回答）

被害妄想と回答してきたもの23名，殺される10名，襲ってくる2名，毒を飲まされる1名であり，被害妄想を示す170名のうち約78%は，物盗られ妄想であった。

IV. 考 察

今回の調査は痴呆疾患の一致率を高めるため，精神科医が診断し，死亡を確認することができる精神病院在院患者を対象に行ったものである。

1. 痴呆疾患の発病年齢

痴呆疾患の発病年齢についての最近の調査報告はあまり見当たらない。1981年に筆者ら¹⁾によって34か所の精神病院で，1975年1月1日より1976年8月31日の期間に在院中に死亡した痴呆患者の調査では，平均発病年齢は149名の脳血管性痴呆では70.2歳（男68.9歳，女71.8歳），160名のアルツハイマー型老年痴呆では74.7歳（男76.8歳，女72.8歳）であった。ついで1990年に実施した，1985年1月1日以降1990年12月末日までの5年間に精神病院内で死亡した痴呆疾患患者の調査²⁾では，271名の脳血管性痴呆の平均発病年齢は74.1歳（男73.3歳，女75.0歳），アルツハイマー型老年痴呆は77.6歳（男77.3歳，女78.0歳）であった。これらの調査と今回の調査結果（脳血管性痴呆78.4歳，アルツハイマー型老年痴呆79.0歳）を比べると，脳血管性痴呆では発症年齢は前々回に比べると約8年，前回に比べると約4年発症が遅くなっている。また，アルツハイマー型老年痴呆に

おいても、前々回に比べて約4年、前回に比べて約1年発症が遅くなってきている。また、1990年の法化図⁹⁾による宮崎県都城市近郊の病院での97名の痴呆患者の報告では、脳血管性痴呆77.6歳、アルツハイマー型老年痴呆では80.5歳で、今回の筆者の調査結果とほぼ類似していた。

2. 罹病期間

前述の1981年の筆者らによる調査では、脳血管性痴呆では5.0年、アルツハイマー型老年痴呆では5.2年、1990年の調査ではそれぞれ4.2年、4.5年であり、今回の調査ではそれぞれ4.4年、4.9年と、罹病期間はそれ程大きな差異はみられていない。また、罹病期間のうち病院入院期間は、前々回では脳血管性痴呆は2.6年、アルツハイマー型老年痴呆は2.8年であり、今回は脳血管性痴呆1.7年、アルツハイマー型老年痴呆1.6年であった。今回は脳血管性痴呆2.0年、アルツハイマー型老年痴呆2.2年であり、それほど大きな差異はみられていない。慢性疾患でありながら、平均入院期間はおよそ2年間であり、その期間に応じた医療・ケアの対応を、精神科医療機関は今後考えていく必要がある。

3. 死因

1981年の調査では、直接死因の第一は心不全、第二は肺炎、第三は脳梗塞であった。1990年の調査では、第一は心不全、第二は肺炎、第三は呼吸不全であり、今回の調査は前回と同様な順位であり、1,043名中事故死(窒息死)は1名で、看護者の注意が十分行き届いているためか、病院での事故死は非常に少ない結果となっている。

V. 結 論

1989年以降5年間に精神病院で死亡した1,043名の痴呆患者の調査を行った。その結果は

1. 平均発病年齢は、脳血管性痴呆は78.4歳(男77.8歳, 女79.2歳)、アルツハイマー型老年痴呆79.0歳(男77.0歳, 女80.0歳)であった。
2. 罹病期間は、脳血管性痴呆は4.4年(男4.0年, 女5.0年)、アルツハイマー型老年痴呆4.9年(男4.1年, 女5.4年)であり、ややアルツハイマー

型老年痴呆が長く、男性より女性の期間が長いことが認められた。

3. 直接死因は、両疾患とも心不全が最も多く、ついで肺炎、呼吸不全の順であった。
4. 初発症状では、もの忘れが最も多く、ついで徘徊、被害妄想、眠らない、せん妄の順であった。(なお、本調査研究は、平成5年度厚生科学研究費補助金長寿科学総合研究事業によるものである)

文 献

- 1) 大塚俊男, 道下忠蔵ほか: 在院痴呆疾患の病態と予後. 精神衛生研究29; 113~122, 1982.
- 2) 大塚俊男, 丸山晋ほか: 痴呆疾患の発症年齢および予後に関する研究. 長寿科学総合研究平成2年度研究報告書1巻; 274~276, 1991.
- 3) 法化図陽一, 藤元登四郎ほか: 在院痴呆患者における臨床-疫学的検討. 日本老年医学27; 188~192, 1990.

Abstract

Based on the death certificates and case histories of demented patients who died during the five years from 1989 at psychiatric hospitals, we investigated the age of onset, the initial symptoms, the duration of disease, the period of hospitalization, the manner and causes of death by classifying the patients by disease entities and sex. A total of 1,043 patients at 31 hospitals were studied; 572 with cerebrovascular dementia, 373 with senile dementia of the Alzheimer type, 8 with Pick's disease, 25 with Alzheimer disease, and 65 other diseases. The average age at the onset, was 78.4 for cerebrovascular dementia (77.8 for men and 79.2 for women) and 79.0 for senile dementia of the Alzheimer type (77.0 for men and 80.0 for women). The duration of disease and the period of hospitalization were 4.4 and 2.0 years for cerebrovascular type dementia and 5.0 and 2.2 years for Alzheimer type dementia. Out of 1,041 subjects, one died of accidental suffocation and the remaining 1,040 of diseases. The deaths by cardiac insufficiency occurred in the most number of patients with cerebrovascular dementia and senile dementia of the Alzheimer type, followed by pneumonia and respiratory insufficiency.